

## 研究・調査報告書

|   |                     |
|---|---------------------|
| 報告書番号   | 担当                  |
| 1 2 7   | 滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 |
| 題名 (原題/訳)   |                     |
| Prospective study of alcohol consumption and metabolic syndrome.<br>飲酒量とメタボリックシンドロームの関連についての前向き研究   |                     |
| 執筆者   |                     |
| Baik I, Shin C.   |                     |
| 掲載誌 (番号又は発行年月日)   |                     |
| Am J Clin Nutr. 2008 May;87(5):1455-63.   |                     |
| キーワード   |                     |
| 飲酒量、メタボリックシンドローム、前向きコホート研究  |                     |
| 要 旨   |                     |
| <p>目的：</p> <p>飲酒はメタボリックシンドロームの有病率と関連することが既存研究において方向されている。しかし、飲酒がメタボリックシンドロームの発症に及ぼす影響に関する検討は数少ない。飲酒とメタボリックシンドローム発症との関連を検討した。</p> <p>方法：</p> <p>対象は Korean Genome Epidemiology Study(KoGES)の前向きコホート研究参加者で、40 歳から 69 歳の韓国人男女 3833 人であり、調査開始時にメタボリックシンドロームのない者とした。飲酒に関する情報は面接による質問票により定期的に聴取した。メタボリックシンドロームの発症は 2003 年から 2006 年の 4 年間に隔年毎に行われる健康診断の結果により診断された。</p> <p>結果：</p> <p>多変量調整相対危険度(RR(95%信頼区間))は非飲酒者と対照とすると一日あたりのアルコール摂取量が 0.1 から 5g の極少量飲酒者では 1.06(0.71,1.58)、5.1g から 15g の少量飲酒者では 1.13(0.69,1.83)、15.1 から 30g の中等量飲酒者では 1.25(0.75,2.09)、30g 以上の大量飲酒者では 1.63(1.02,2.62)であった。すべてのメタボリックシンドロームの構成要因は大量飲酒、特に醸造酒の大量飲酒と統計的に有意な関連を示した。</p> <p>結論：</p> <p>大量飲酒、特に醸造酒の大量飲酒はメタボリックシンドロームの構成要因に影響を及ぼし、メタボリックシンドロームの発症増加と関連を認めた。今後さらに少量飲酒とメタボリックシンドロームとの関連や、ビールやワインといった飲酒の種類との関連を明らかにする必要がある。</p> |                     |